

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192300032		
法人名	野原電研株式会社		
事業所名	グループホーム柚子養老(西ユニット)		
所在地	岐阜県養老郡養老町船附字大割田1421		
自己評価作成日	令和2年11月15日	評価結果市町村受理日	令和3年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosyoCd=2192300032-00&Ser.vi.cd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和2年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大きな南向きの窓からは養老山脈が見渡せ、明るい日差しが差し込む環境の中、フロアには季節の花を飾ったり利用者と一緒に作った壁紙や、日々の様子を写した写真などを掲示しており、季節を感じたり日々の出来事が思い出せるようにしている。二つのユニットはいつでも開放し利用者同士の行き来もあり、互いに交流し会える環境となっている。余暇の時間を利用し計算問題や公文などを行い結果を評価するのではなくコミュニケーションを図りながら認知症予防に努めている。現在毎月の外出やボランティア団体の受け入れ等による交流は、コロナの感染拡大防止の為にきていない状況である。健康面では定期往診に情報を伝えるだけでなく、事前にメールで状態を伝える事で緊急で往診の依頼をしたり、受診をするなどして早い対応が出来るよう、主治医との連携に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度はコロナ禍の影響で、今まで大切にしていた家族との面会、地域との交流や外出支援が困難になっている状況である。そのような中でも、日常的な利用者とのコミュニケーションの中での利用者の言葉をヒントにしながら、ホーム内で喫茶店を開いたり、ドラム缶で焼き芋をしたり、流しそうめんを行ったりする等、いろんなイベントを実施している。毎年交流のあった保育園とは、敬老の日に作品のプレゼントをもらい、お礼として、利用者の手作りのティッシュケースを送る等、交流が途切れないうり組んでいる。毎月、手書きスペースを活用した書式で便りを家族に送る等、コロナ禍の只中でも、繋がりを継続できるよう工夫している。主治医とは、メディカルケアステーションサービスを活用し、24時間の連携体制を構築する等、医療面においても利用者・家族の安全安心に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心な老後、安心な介護、安心な環境と言う三つの安心を事業所の理念とし、理念の基に今年の言葉を朝礼で復唱し実践に繋げている	理念を踏まえて、「今年度の目標」を「たくさんの笑顔を大切に作る」としている。今年度は、コロナ感染症対策で外出ができないため、利用者の楽しみであった日課の喫茶店外出の代替として、ホームで喫茶店行事を行う等、理念や目標を実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染拡大防止の為、現在地域との交流である、ボランティアの受け入れや、こちらから出向くことはしていない状況である	地域交流に関しては、コロナ禍の影響で、現在は外出やボランティアの受け入れは行っていないが、例えば、例年交流している保育園からプレゼントをもらえば、お礼に手作りの品を贈り、再びお礼の言葉が届けられる等のやり取りを通じて、今までとは違う新たな交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は地域のスーパーなどで介護保険の説明会等行っていたが、現在は活動できていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催予定していたが、コロナ感染拡大防止の為すべて書面での会議にしている。事前に家族、役員などに承諾を得て会議の内容を資料にして報告し、承諾を得る際には意見を聞けるようにしている。	コロナ禍の状況にあり、現在、運営推進会議の開催は行っていないが、各関係者には、事前に会議内容及び意見書を渡し、意見を返送してもらうことで、運営状況を報告し、意見のサービス向上への反映につなげるよう工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍での運営推進会議開催について、役場の健康福祉課の方に相談したり、マスク支給などの協力を得たりしている。	現在はコロナ禍の只中にあるので、感染症対策について、日常的に情報交換を行うとともに、運営推進会議開催の有無やあり方、マスク支給、困難事例等、各種の相談や話し合いを行い、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。またスピーチロックのように利用者の動きを止めてしまう事などについても話し合った。家族の方にもその都度情報を伝えるようにして理解を得るようにしている。	身体的拘束だけが「拘束」ではないという考え方を職員間に周知徹底するため、今年度は、スピーチロックについて話し合いを持った。椅子等から立ち上がる利用者に「座っていて」と言っていた職員が、利用者に「寄り添い、見守る、一緒に行動する」というような場面が見られるようになった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスで研修として虐待防止関連法についても学ぶと共に、言葉使いや、態度等お互いに注意し合うなどして気を付けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を利用している方はいない。制度については今後研修の一つとしてカンファレンス等で勉強したいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	問い合わせや見学時には、パンフレットによる簡単な説明を行い、申し込み時には詳しく説明、質問にも丁寧に答えるようにしている。改定等ある際は家族の方にその都度説明し、同意を得るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様情報による聞き取りや、投書箱を置き意見を聞くようにしている。現在はコロナの為面会の自粛、外部からの来設を制限しているため、家族からの問い合わせ時に意見や要望を聞くようにしている	外部や家族だけではなく、利用者からの意見も大切にしている。利用者のつぶやきも意見として拾い上げ、申し送りノート等で情報共有している。やれることはできる限り実現するよう施設長と相談し、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回のカンファレンスの際に職員からの意見や提案をしやすい環境を作り、それを運営会議で報告するなどしている。	事前に議題を募り、毎月、会議を開催し、話し合うことで、良い意見が出る機会となっている。施設長、各所属長が参加する運営会議で結果を報告し、施設長は系列施設との合同会議で、代表者に職員の意見を伝達している。	コロナ禍の状況を脱した後も、ウイズコロナ時代が続くことが想定されるので、その中でも「利用者が楽しく豊かに生活するためにどうしたらよいか」について職員間で意見交換し合うとともに、今後のホーム運営のあり方について検討に向けた取り組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意見や提案の優れたものに対して評価、業務に生かす等したり、資格取得の為に研修会や、勉強会を開き支援、資格取得者に対して手当を出す等している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加は出勤扱いとし、研修参加後報告書を提出、施設内の研修で発表するようにしている。又時間外の研修(個人的なもの)に参加希望の職員に対し、参加できるように勤務時間の調整などしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染拡大防止の為、現在研修や講演会への参加はしていない。同業者との交流も図れていない状況にある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談や入所までの間に困っていることや、不安などを聞き取り、入所後も安心して相談できるように、コミュニケーションを図る事で、信頼関係が築けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会を自粛してもらっている状況の為、電話などで何度か話を聞き、本人の状態だけでなく、家族の生活状況にも目を向け、入所前、入所後も連絡を密に取るようにし、関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談があった際本人にとって必要なサービスを見極め、必要に応じ他の事業所の紹介や、他のサービス利用の説明等の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で利用者と職員、又は利用者同士が協力し合い、一緒に作品を作ったり、家事などを手伝ってもらったりしている。又職員や他の利用者の体調を気遣う等関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りにて日々の生活状況を伝えたり、面会時または電話にて、常に情報を交換し相談、家族に協力を依頼することで、共に本人を支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染拡大防止で外出や、面会などもしてもらっていない為出来ていない。	今年度は、コロナ禍の影響で、面会や外出が困難なため、電話で話をしたり、非常階段等の感染リスクがない場所から利用者を見てもらう等、対応をしている。今後も、家族と利用者との関係が途切れないよう、ホームでタブレットを購入し、オンラインでの面会ができるような環境を準備している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	両フロア関係なく行き来できるような雰囲気作り。誕生会やレク等一緒に参加できる機会を作り、気の合う人や友人関係が築け、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、入院中も経過を気にかかけ、病院の相談員などに、電話で問い合わせ状況を聞いたり、家族に声をかけるようにし、相談や必要な情報を伝えるような支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で声かけコミュニケーションを図り本人の思いや暮らし方をくみ取るように努め、手を出し過ぎない様、本人のペースで生活できるよう情報を共有しスタッフ全員で検討している	日常的なケアを通した関わりの中で、利用者との何気ない会話から、思いを聞き取り、申し送りノート等を活用して、職員間で情報を共有し、カンファレンス等を通じて、話し合い、自分でできることを行えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時家族から現在に至るまでの生活歴、家族関係や地域との関係を聞き、日常生活の中では家族や地域との繋がりを話題にするなどして、今に至るまでの生活を把握、サービスの利用に役立てている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方や、心身状態などを、ノートに記録し申し送るようにし、カンファレンスでは個々の利用者について職員全員が情報を共有し把握できる出来るように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス時に参加者全員で話し合い、ケアプランの見直しを行う。又家族の面会時に要望を聞き、医師や看護師にも専門的な観点より、アドバイスをもらう等し、介護計画に反映できるようにしている	利用者のモニタリングを実施し、状況変化について把握している。家族電話等で事前に現状を伝え、意向を確認し、それを踏まえて、毎月のカンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。密な医療連携体制があり、医師や看護師からの助言を介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日申し送りノートに一日の生活の様子を記録し、朝礼、夕礼にて伝える。タブレットによる個別の介護記録の入力と、手書きによる特記事項の記録により介護計画に生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	早朝や夕方の受診に合わせ食事の準備をしたり、情報を記載し手渡す等スムーズに受診できるように支援。外出、外泊時は事前に必要な準備を行い、車椅子での急な外出時介護タクシーの手配等も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの為地域へ出かける事や、地域の方の来訪出来ない状況の中、近隣の子ども園から敬老の日のプレゼントをもらったり、お礼に手作りの物を返し喜んでもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による往診や、MCSの利用により夜間、休日であっても情報を伝えられる関係を作り、受診希望の方の場合も、日々の状態を伝える等し気になる事があれば都度伝えるようにしている。	往診は、毎月2回あり、利用者の状況に応じて随時の往診もある。予め文書で現状を医師に報告する等し、連携を深めている。利用前の主治医を選択することもでき、受診については家族対応となっている。心療内科の主治医もいるため、認知症状に合わせ、内服薬の調整等、相談している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師に体調の変化を伝え指示を受けたり、協力医療機関の看護師による健康チェックや電話での相談にも対応してもらえるようにし支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関への情報提供をし、面会に行った際は、相談員や看護師などの関係者より状態を聞き、家族との情報交換を行い、早期退院の支援をしている(現在面会はできない為電話にて状態確認している)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に医療的に対応できる事、できない事を伝えておく。又重度化や終末期を迎えたときに向け、かかりつけ医や家族と話し合い、対応できない時は対応できる施設の紹介など、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用時に、終末期ケアについて、ホームで対応できることやできないことについて説明し、「食べられなくなった」、「入院を繰り返す」等、重度化してきた場合には、状態によって医師から家族に説明を行っている。近隣の協力医療機関や特別養護老人ホーム等の紹介や連携等、利用者・家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、緊急時対応マニュアルを作成し、研修にて対応の仕方を確認、夜間の急変時にも落ち着いて対応できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策用に衣類(布団)や非常食の準備をしている。第三者にも状態が分かるように居室入口に提示している。又夜間帯を想定した避難訓練も行っている。	今年は、新型コロナウイルスの影響もあり、消防のDVDを見て、机上訓練を行った。水や食糧、浄水器、発電機、ゴムボート等、過去の災害をもとに防災関係用品等を準備している。また、災害時には、消防署と連携して2階へ避難し、ベランダに待機する等、申し合わせを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出勤時は一人一人に挨拶をし、日常生活の中でも、プライドやプライバシーに配慮した声掛けを行うようスタッフ間で呼びかけ、自尊心を気づけけないよう気にかけている。	利用者一人ひとりの人格を尊重する観点から、日常的なケアの場面で、本人の尊厳やプライバシー保護に配慮した対応に心がけている。例えば、トイレ誘導の際には、さりげなく小声で声かけする等の対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	水分補給時の飲み物をはじめ、おやつや食事の際にも本人の好みの食品を提供するように希望を聞き対応。その都度声掛け確認、自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の準備の都合や、入浴介助の関係から基本的な流れはあるも、本人のペースに合わせ変更したり、レクへの参加も声掛け確認し、希望者の参加を援助、無理に誘導するような事の無い様にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や外出時の服装等自己にて選んでもらったり、外出の際お化粧の好きな方には口紅を塗る、夏祭りには浴衣を準備し希望の方には着てもらおう等オシャレができるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一回特別メニューの日をもうけたり、季節感のあるものや行事食を提供。好みのものがあれば個々に準備し対応、誕生会やおやつレク等では、職員と一緒に作り食べる楽しみを持ってもらえるようにしている	利用者のエンパワメントを高める観点から、その潜在能力の活用のため、下膳や洗い物等は、本人の能力や状況に応じてお願いしている。利用者の声をきっかけに、喫茶を開いて楽しんでもらったり、利用者それぞれの嗜好を聞き取り、その人の好みに応じて、納豆やヨーグルト、海苔の佃煮等提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分補給の回数などを記録、一日を通し栄養面や水分量が確保できるように支援。個人的に希望される食品がある方に対しては準備し提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後の口腔ケアの声掛けや見守り、出来ない方に対しては、介助にて歯磨きを行っている。又本人、家族希望にて歯科往診、義歯の調整や歯石の除去などのケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用個々の排泄リズムを把握しトイレ誘導している。全介助の方も排泄の訴えあれば日中はトイレで排泄出来るように二人で対応、支援している	水分量を把握し、毎朝センナ茶を提供している。利用者それぞれの排泄パターンに合わせて排泄用品等の対応を行っている。利用者の状況に応じて、さりげないトイレ誘導を行う等、職員チームで、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の回数や状態を記録し、便秘がちな方に対し水分を多く摂ってもらったり、リハビリ体操への参加や、フロア内歩行等の声掛けを行い運動をすすめている。起床時センナ茶の提供なども行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本週二回の入浴となっているが、体調や本人の希望にて曜日を変更したり、個浴を活用し午前中に入浴してもらうこともある。	季節に合わせて、ゆず湯等行ったり、入浴剤の使用を検討する等、入浴が楽しみなものになるよう配慮している。利用者の体調や入浴の希望に応じて入浴日を変更する等、対応している。乾燥肌の方は、保湿剤を処方してもらい、スキンケアに努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使い慣れた寝具を使用、安眠できるようにし、着床時間も本人の希望に添い介助している。また日中もソファでくつろぎ休息、居室で休養される方もあり、その時の状況に合わせ支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時や受診時に個々の情報を伝え、必要な薬を処方してもらい、全職員が服薬ファイルにて内容を確認、服薬介助している。内服変更時も同様。又介助後はチェック表にて服薬漏れの無い様にしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たみやおしぼりたみ、掃除等の家事を手伝ってもらう事で役割を持ってもらう。また塗り絵、散歩、歩行練習など楽しみ、気分転換に繋がる支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為現在受診以外の外出はできていない現状がある。	今年度は、コロナ禍の影響で外出支援が困難な状況にある。そのような中でも、楽しみづくりとして、ホームで喫茶行事を行う等、雰囲気味わってもらえるよう工夫している。また、バルコニーで、外気に触れてもらう等、気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より小口資金(お小遣い)として預かり管理している。外出時には個々に支払うようにしてもらったり、買い物の際に使ってもらえるようにする事も有るが職員が支払う事が多い		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話にて自由に家族や知人と連絡をとっている方もあり、電話をかけて欲しいと言われる方に対しては、事前に家族に了解を取り電話出来るように支援している。公文学習を通して手紙を書いてもらう事もある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南向きのフロアは日が差し過ぎる事もあり、希望を聞きながらカーテンを閉めたり、午前午後でフロアを移動する事もある。季節の花を飾ったり、利用者の作品を掲示、レクや日常の写真を掲示することで話題となる事もあり、	リビングに、行事の写真を掲示しており、2か月ごとに掲示を張り替えている。利用者の作品や写真を飾る等して、会話のきっかけや話題を提供している。その日によって音楽を流す等して居心地の良い環境づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話の合う方同士、テーブル席で会話される事や、窓際には椅子を設置し外を眺め過ごされる方やソファで本を読まれる方もあり、共同の空間の中でも思い思いに過ごすことができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使用していた家具や寝具などを持ってきてもらい、家族の写真や本人の使い慣れたものや好みのものの中で居心地良く過ごせるような工夫をしている	居室には、タンスが備え付けられているが、入居前の情報をもとに、自宅での生活スタイルの継続ができるよう、馴染みの家具やテレビ、畳等を持ってきてもらっている。家族や行事の写真、作品を飾ることで、本人が、居心地良く過ごせる居室環境となるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広い廊下で安全に車椅子の自操ができ、自由に居室とフロアの行き来が出来る。手すりの設置にて歩行時の安全に配慮、口腔セットの棚などもあり毎日の日課に伴う事が出来るように工夫している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192300032		
法人名	野原電研株式会社		
事業所名	グループホーム柚子養老(東ユニット)		
所在地	岐阜県養老郡養老町船附字大割田1421		
自己評価作成日	令和2年11月15日	評価結果市町村受理日	令和3年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosyoCd=2192300032-00&SerViCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和2年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大きな南向きの窓からは養老山脈が見渡せ、明るい日差しが差し込む環境の中、フロアには季節の花を飾ったり利用者と一緒に作った壁紙や、日々の様子を写した写真などを掲示しており、季節を感じたり日々の出来事が思い出せるようにしている。二つのユニットはいつでも開放し利用者同士の行き来もあり、互いに交流し会える環境となっている。余暇の時間を利用し計算問題や公文などを行い結果を評価するのではなくコミュニケーション図りながら認知症予防に努めている。現在毎月の外出やボランティア団体の受け入れ等による交流は、コロナの感染拡大防止の為に来ていない状況である。健康面では定期往診に情報を伝えるだけでなく、事前にメールで状態を伝える事で緊急で往診の依頼をしたり、受診をするなどして早い対応が出来るよう、主治医との連携に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心な老後、安心な介護、安心な環境と言う三つの安心を事業所の理念とし、理念の基に今年の言葉を朝礼で復唱し実践に繋げている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染拡大防止の為、現在地域との交流である、ボランティアの受け入れや、こちらから出向くことはしていない状況である		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は地域のスーパーなどで介護保険の説明会等行っていたが、現在は活動できていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催予定していたが、コロナ感染拡大防止の為すべて書面での会議にしている。事前に家族、役員などに承諾を得て会議の内容を資料にして報告し、承諾を得る際には意見を聞けるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ渦での運営推進会議開催について、役場の健康福祉課の方に相談したり、マスク支給などの協力を得たりしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。またスピーチロックのように利用者の動きを止めてしまう事などについても話し合った。家族の方にもその都度情報を伝えるように対応しているか伝えるようにして理解を得るようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスで研修として虐待防止関連法についても学ぶと共に、言葉使いや、態度等お互いに注意し合うなどして気を付けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を利用している方はいない。制度については今後研修の一つとしてカンファレンス等で勉強したいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	問い合わせや見学時には、パンフレットによる簡単な説明を行い、申し込み時には詳しく説明、質問にも丁寧に答えるようにしている。改定等ある際は家族の方にその都度説明し、同意を得るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様声情報による聞き取りや、投書箱を置き意見を聞くようにしている。現在はコロナの為面会の自粛、外部からの来設を制限しているため、家族からの問い合わせ時に意見や要望を聞くようにしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回のカンファレンスの際に職員からの意見や提案をしやすい環境を作り、それを運営会議で報告するなどしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意見や提案の優れたものに対して評価、業務に生かす等したり、資格取得の為に研修会や、勉強会を開き支援、資格取得者に対して手当を出す等している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加は出勤扱いとし、研修参加後報告書を提出、施設内の研修で発表するようにしている。又時間外の研修(個人的なもの)に参加希望の職員に対し、参加できるように勤務時間の調整などしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染拡大防止の為、現在研修や講演会への参加はしていない。同業者との交流も図れていない状況にある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談や入所までの間に困っていることや、不安などを聞き取り、入所後も安心して相談できるように、コミュニケーションを図る事で、信頼関係が築けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会を自粛してもらっている状況の為、電話などで何度か話を聞き、本人の状態だけでなく、家族の生活状況にも目を向け、入所前、入所後も連絡を密に取るようにし、関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談があった際本人にとって必要なサービスを見極め、必要に応じ他の事業所の紹介や、他のサービス利用の説明等の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で利用者と職員、又は利用者同士が協力し合い、一緒に作品を作ったり、家事などを手伝ってもらったりしている。又職員や他の利用者の体調を気遣う等関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りにて日々の生活状況を伝えたり、面会時または電話にて、常に情報を交換し相談、家族に協力を依頼することで、共に本人を支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染拡大防止で外出や、面会などもしてもらっていない為出来ていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	両フロア関係なく行き来できるような雰囲気作り。誕生会やレク等一緒に参加できる機会を作り、気の合う人や友人関係が築け、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、入院中も経過を気にかかけ、病院の相談員などに、電話で問い合わせ状況を聞いたり、家族に声をかけるようにし、相談や必要な情報を伝えるような支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で声かけコミュニケーションを図り本人の思いや暮らし方をくみ取るように努め、手を出し過ぎない様、本人のペースで生活できるよう情報を共有しスタッフ全員で検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時家族から現在に至るまでの生活歴、家族関係や地域との関係を聞き、日常生活の中では家族や地域との繋がりを話題にするなどして、今に至るまでの生活を把握、サービスの利用に役立っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方や、心身状態などを、ノートに記録し申し送るようにし、カンファレンスでは個々の利用者について職員全員が情報を共有し把握できる出来るように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス時に参加者全員で話し合い、ケアプランの見直しを行う。又家族の面会時に要望を聞き、医師や看護師にも専門的な観点より、アドバイスをもらう等し、介護計画に反映できるようにしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日申し送りノートに一日の生活の様子を記録し、朝礼、夕礼にて伝える。タブレットによる個別の介護記録の入力と、手書きによる特記事項の記録により介護計画に生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	早朝や夕方の受診に合わせ食事の準備をしたり、情報を記載し手渡す等スムーズに受診できるように支援。外出、外泊時は事前に必要な準備を行い、車椅子での急な外出時介護タクシーの手配等も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の子ども園やお寺から行事の案内を貰い参加、または来所にて交流を図っているほか、地域の中学の体験学習やボランティアの受け入れ等行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による往診や、MCSの利用により夜間、休日であっても情報を伝える関係を作り、受診希望の方の場合も、日々の状態を伝える等し気になる事があれば都度伝えるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師に体調の変化を伝え指示を受けたり、協力医療機関の看護師による健康チェックや電話での相談にも対応してもらえるようにし支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関への情報提供をし、面会に行った際は、相談員や看護師などの関係者より状態を聞き、家族との情報交換を行い、早期退院の支援をしている(現在面会はできない為電話にて状態確認している)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に医療的に対応できる事、できない事を伝えておく。又重度化や終末期を迎えたときに向け、かかりつけ医や家族と話し合い、対応できない時は対応できる施設の紹介など、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、緊急時対応マニュアルを作成し、研修にて対応の仕方を確認、夜間の急変時にも落ち着いて対応できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策用に衣類(布団)や非常食の準備をしている。第三者にも状態が分かるように居室入口に提示している。又夜間帯を想定した避難訓練も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出勤時は一人一人に挨拶をし、日常生活の中でも、プライドやプライバシーに配慮した声掛けを行うようスタッフ間で呼びかけ、自尊心を気づけけないよう気にかけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	水分補給時の飲み物をはじめ、おやつや食事の際にも本人の好みの食品を提供するように希望を聞き対応。その都度声掛け確認、自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の準備の都合や、入浴介助の関係から基本的な流れはあるも、本人のペースに合わせ変更したり、レクへの参加も声掛け確認し、希望者の参加を援助、無理に誘導するような事の無い様にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や外出時の服装等自己にて選んでもらったり、外出の際お化粧の好きな方には口紅を塗る、夏祭りには浴衣を準備し希望の方には着てもらおう等オシャレができるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一回特別メニューの日をもうけたり、季節感のあるものや行事食を提供。好みのものがあれば個々に準備し対応、誕生会やおやつレク等では、職員と一緒に作り食べる楽しみを持ってもらえるようにしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分補給の回数などを記録、一日を通し栄養面や水分量が確保できるように支援。個人的に希望される食品がある方に対しては準備し提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後の口腔ケアの声掛けや見守り、出来ない方に対しては、介助にて歯磨きを行っている。又本人、家族希望にて歯科往診、義歯の調整や歯石の除去などのケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用個々の排泄リズムを把握しトイレ誘導している。全介助の方も排泄の訴えあれば日中はトイレで排泄出来るように二人で対応、支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の回数や状態を記録し、便秘がちな方に対し水分を多く摂ってもらったり、リハビリ体操への参加や、フロア内歩行等の声掛けを行い運動をすすめている。起床時センナ茶の提供なども行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本週二回の入浴となっているが、体調や本人の希望にて曜日を変更したり、個浴を活用し午前中に入浴してもらうこともある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使い慣れた寝具を使用、安眠できるようにし、着床時間も本人の希望に添い介助している。また日中もソファでくつろぎ休息、居室で休養される方もあり、その時の状況に合わせ支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時や受診時に個々の情報を伝え、必要な薬を処方してもらい、全職員が服薬ファイルにて内容を確認、服薬介助している。内服変更時も同様。又介助後はチェック表にて服薬漏れの無い様にしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみやおしぼりたたみ、掃除等の家事を手伝ってもらう事で役割を持ってもらう。また塗り絵、散歩、歩行練習など楽しみ、気分転換に繋がる支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為現在受診以外の外出はできていない現状がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より小口資金(お小遣い)として預かり管理している。外出時には個々に支払うようにしてもらったり、買い物の際に使ってもらえるようにする事も有るが職員が支払う事が多い		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話にて自由に家族や知人と連絡をとっている方もあり、電話をかけて欲しいと言われる方に対しては、事前に家族に了解を取り電話出来るように支援している。公文学習を通して手紙を書いてもらう事もある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南向きのフロアは日が差し過ぎる事もあり、希望を聞きながらカーテンを閉めたり、午前午後でフロアを移動する事もある。季節の花を飾ったり、利用者の作品を掲示、レクや日常の写真を掲示することで話題となる事もあり、		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話の合う方同士、テーブル席で会話される事や、窓際には椅子を設置し外を眺め過ごされる方やソファで本を読まれる方もあり、共同の空間の中でも思い思いに過ごすことができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使用していた家具や寝具などを持ってきてもらい、家族の写真や本人の使い慣れたものや好みのものの中で居心地良く過ごせるような工夫をしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広い廊下で安全に車椅子の自操ができ、自由に居室とフロアの行き来が出来る。手すりの設置にて歩行時の安全に配慮、口腔セットの棚などもあり毎日の日課に伴う事が出来るように工夫している		